

しゃくなげ学級 1、2 組 保健体育「ボッチャ」学習指導案

令和 7 年 1 1 月 1 9 日（水）第 5 校時
場 所 武道場
生徒数 8 名
指導者 T1 長谷川 航希
T2 和田 竜

1 単元名 球技 「ボッチャ」

2 単元設定の理由

ボッチャは、年齢や性別、障がいのあるなしに関わらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツである。また、ボッチャは単なる競技ではなく、戦略性、技術、チームワーク、そして何よりも「誰もが一緒に楽しめる」という点に魅力があり、パラリンピックで採用されているスポーツであることから学年や体格、特性に違いがあるしゃくなげ学級で実施したいと考え、この単元を設定した。

（1）学級及び生徒の実態

しゃくなげ学級の生徒は、小学校又は中学校での交流会などでボッチャの経験がある。そのためルール of 把握、場所の設営がスムーズに行えるため、運動量の確保が可能である。生徒の実態として、主体性がなく、話し合い活動が苦手な生徒が多い。加えて体の調整力がなく、力加減や狙ったところに投げるのが苦手な生徒が多い。

しゃくなげ学級 8 名を対象にアンケートを行った。

【意識調査の結果】

質問 1 体育の授業は好きですか。

回答	好き	どちらかという 好き	どちらかという 嫌い	嫌い
人数	4 人	4 人	0 人	0 人

質問 2 ボッチャは好きですか。

回答	好き	どちらかという 好き	どちらかという 嫌い	嫌い
人数	0 人	5 人	3 人	0 人

質問 3 ボッチャの競技で苦手なところはどこですか。

・力のコントロールが難しいところ。	・作戦を立てるのが難しい。
・技が複雑で大変。	・投げるのが嫌い。
・ジャックボールに近づけるのが苦手。	・力加減が難しい。
・相手チームがジャックボールに近い時、相手チームのボールをヒットさせるのが苦手。	

この結果から、体育は好きだが、ボッチャには苦手意識があることが分かった。

(2) 単元について

ボッチャは、重度の脳性麻痺や重度の障がいがある人のために考案されたスポーツであり、近年では障がいの有無に関わらず、誰でも楽しめるスポーツとして注目されている。ボッチャは、8名全員が経験している。これまで以上にボッチャの楽しさや、仲間との関わりを深めたいと考えこの単元に設定した。

(3) 指導・支援について

①知識及び技能

本単元では、狙ったところに投げることや審判を行うことなど効率よくゲームが展開できるようになることを目指していく。

②思考力、判断力、表現力等

自己や仲間の課題を発見し、これまで学習した知識や技能を活用して、場面や展開に応じた技能の選択をしたり、自己や仲間の課題や解決に向けて考えたりしたことを、他者に分かりやすく伝えられるように工夫していく。

場面に応じた技能の選択が難しい生徒のための手立てとして毎授業の導入で場면을提示し、考え、話し合う活動を取り入れることや、試合中の作戦会議の時に教員が助言や新たな視点を提示する。

③学びに向かう力、人間性等

ボッチャはただ投げるだけのスポーツではなく、様々な工夫ができることや奥深さを楽しみと感じさせるようにしたい。また、スモールステップで成功体験を積み、自信をつけさせる。単元のまとめのゲームや試合では、勝利を目指して仲間と協力して取り組めるようにし、技能の向上の為に精一杯動くことができるようにしたい。

3 学校研究主題との関連

研究主題 『生徒の探究力を伸ばす教育活動の工夫』

～小規模校の特性を生かした個別最適な学びと協働的な学び～

生徒一人一人に対し、学習の個性化と指導の個別化を図ることで、生徒の探究力や学習方略を獲得する力を伸ばす。さらに、多様な集団における交流と協働的な学びを充実させることで探究力や非認知能力が高まる場を設定する。具体的には生徒の実態を踏まえ、ペアの工夫を行う。主体性のある生徒とそうでない生徒をペアにすることで、どちらも主体性をもつようにする。そして作戦会議をするタイミングをこちらから提示する。よって何も考えずボールを投げることをなくす。

また、作戦をどう立てればよいか分からない生徒の為に、授業の導入では場面を示し、どのような作戦があるか話し合う活動を取り入れる。加えて、投げるときはどの技能を選択し、実行するのか声にするというルールを設ける。

ボッチャでは、ただ投げるだけではなく、球数、相手の技能、展開に応じた技の選択が必要になる。作戦会議を通して、考え、結論を出す力を身に付けさせる。2コート作ること待ち時間を作らず、多くの試合を経験することができる。

4 単元の見目

- (1) 基本的なルールを理角し、練習やゲームに参加している。(知識及び技能)
 (2) 場面や展開に応じた技能をよく考え、選択することができる。(思考力、判断力、表現力等)
 (3) ボッチャに積極的に取り組むとともに、ルールやマナーを守ることができる。(学びに向かう力、人間性等)

5 指導計画 (10 時間扱い 本時 10／10)

過程	学習内容	ねらい	時間
1	ボッチャのルールや技を知り、実践しよう。	・ボッチャの授業に見通しをもち、ルールを理角しようとする気持ちを高める。 ・実際にどんな技があり、どんな場面で使うのか試合を通して知ろう。	1 2～5
2	ボッチャの試合で作戦を立て、実行しよう。	・ペアで作戦を立て、実行し次回に活かそう。	6～10

6 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 場面や展開に応じた技能をよく考え、選択することができる。
 ② ボッチャに積極的に取り組むとともに、ルールやマナーを守ることができる。

(2) 生徒の実態 ※【別表参照】とする。

(3) 個別の指導内容及び目標

	学年	性別	具体的な指導内容	個人目標
A	1	女	・過去の失敗を振り返り、少しずつ調整を促す。	・自分が狙った場所に、投げるることができる。
B	2	女	・自己の目標を設定させることや、成功を褒める。	・投げやりにならず、最後まで楽しむことができる。
C	2	男	・一人一つ意見を言うて決めてゲームに臨ませる。	・自分の考えを、作戦会議で伝えることができる。
D	2	男	・自分の成長に目を向けるようにさせる。	・勝ち負けにこだわらず、楽しむことができる。
E	3	女	・一人一つ意見を言うて決めてゲームに臨ませる。	・自分の考えを、作戦会議で伝えることができる。
F	3	女	・一人一つ意見を言うて決めてゲームに臨ませる。	・自分の考えを、作戦会議で伝えることができる。

G	3	女	・味方や相手のプレーを褒めるように伝える。	・相手を思いやることができる。
H	3	男	・技のコツや個別練習を行わせる。	・自分の選択した技を成功することができる。

(4) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点【○指導 ◆評価規準】
導入 15分	1 用具等の準備	○ 全員が協力して準備を行うように伝える。 ○ 安全に気を付けるように伝える。
	2 集合・挨拶・出席確認	○ 日直の号令で元気よく挨拶ができるよう声がけを行う。 ○ 健康状態の確認をする。
	3 準備運動 ①動的ストレッチ ②バランストレーニング ⇕ フラフープトレーニング	○ ペアは教員が決める。 ○ 肩や股関節の可動域を広げるために行うことを伝える。 ○ 2つのトレーニングを分けて行う。 ※ 1つのトレーニングに1人の教員の配置。 ○ 自分の体を上手くコントロールするために行うことを伝える。
	4 本時の流れの確認	○ 流れ ○ 場面への対応をペアで考えさせ、発表させる。 ○ 試合を行う。 ○ 振り返りを行う。 ○ 次回の予告
	5 めあての確認	○ めあては、「場面や展開に応じた技能の選択ができるようにしよう」であることを伝える。 この中の技能から、場面に応じて選択する。 ①アプローチ ②ヒット ③プッシュ ④ライジング ⑤ロビングボール
展開 30分	6 場面への対応策をペアで考える。	○ こちらが決めたペアで考えさせる。 ○ 3パターンあることを伝える。 ○ ホワイトボードを使って説明させる。
	7 試合を行う。	○ 投げるときにどの技を使うか言ってから投げさせる。 ○ 作戦会議の時間を設ける。 ※2投目、3投目は、必ずボールの方へ行き、ペアで作戦会議を行う ○ 得点板は、自分たちで動かすように伝える。 ○ 片付けは素早く行わせる。

		○ いい場面があったら止めて全員の前で説明する。
	◆場面や展開に応じた技能をよく考え、選択することができる。	
整理 5分	8 振り返りを行う。 ○ 自分の良かったところや課題点を考えるように伝える。	
	9 片付けを行う。	○ 素早く協力して片付けを行わせる。
	10 次回の予告を行う。	○ 今回の内容が、どう生きていくのかの説明をする。
	11 健康のチェックを行う。	○ けが人のチェックを行う。
	12 挨拶を行う。	○ しっかり大きな声で、挨拶を行わせる。

7 評価

(1) 共通目標に係る評価

場面や展開に応じた技能をよく考え、選択することができたか。
ボッチャに積極的に取り組むとともに、ルールやマナーを守れたか。

(2) 個人目標に係る評価

指示や連絡をよく聞くことができたか。
相手を思いやる言動や行動ができたか。

8 武道場環境図

